横浜キネマ倶楽部
第４２号　会報
2016年3月5日発行

第４２回上映会

NO ノー

（2012年／チリ・アメリカ・メキシコ／118 分／ブルーレイ上映）

(C)2012 Participant Media No Holdings,LLC.

2016年3月5日（土）
［上映時間］　①11:00　②14:00
［会　　場］ 神奈川公会堂

伊藤千尋氏講演
13:10～13:50

NO ノー

(C)2012 Participant Media No Holdings,LLC.

1988年、

ピノチェト独裁政権末期の南米チリ。

フリーの広告マンとして忙しい日々を送っているレネ・サアベドラ(ガエル・ガルシア・ベルナル)のもとに、かねてから家族ぐるみの付き合いがある友人ウルティア(ルイス・ニェッコ)が訪ねてくる。ウルティアは反独裁政権の左派メンバーのひとりで、近く実施される政権の信任継続を問う国民投票の反対派「NO」陣営の中心人物であった。
今回、投票までの 27 日間、政権支持派「YES」と反対派「NO」それぞれに1日15分のPR ができるテレビ放送枠が許され、広告や CM 制作の責任者として新進気鋭のクリエーターであるレネに白羽の矢が立ったのだ。
政権が対外的に平等をアピールしているだけの出来レースと、気乗りしないレネだったが、次第にプロの広告マンとしてのプライドをかけて制作に取り組むようになっていく。
はじめ、彼の作る資本主義の象徴のような CM は独裁政権下で弾圧をうけ迫害されてきた党員たちから非難されるが、明るい未来、喜び、そして希望を謳いあげる斬新でウイットに富んだ言葉や映像は国民の心をつかんでいく。
そんな風潮に焦りを感じた「YES」陣営たちは、賛成派の広告アドバイザーとして関わっていたレネの上司グスマン(アルフレド・カストロ)を広報責任者とし、強大な権力を使って「NO」陣営へ妨害と脅迫行為を繰り返し、押さえ込んでいく。
「YES」派と「NO」派の熾烈な CM 合戦が繰り広げられ、いよいよ投票日がやってくる…。

監 督 ：パブロ・ラライン　　脚 本 ：ペドロ・ペイラノ
出 演 ：ガエル・ガルシア・ベルナル、アルフレド・カストロ、
アントニア・セヘルス、ルイス・ニェッコ
オリジナル戯曲 ：アントニオ・スカルメタ「国民投票」

（公式ホームページより）

【監督プロフィール】　パブロ・ラライン Pablo Larrain

1976年チリ サンティアゴ生まれ。映画、テレビ、コマーシャルの製作会社ファブラ（fabula）を創設。2005年『フーガ（Fuga ）』で長編デビュー。2007年にはマテオ・イリバレン（Mateo Iribarren）とアルフレド・カストロ（AlfredoCastro）の共同脚本を監督した第2作目の長編『トニー・マネロ（Tony Mareno）』が2008年カンヌ国際映画祭監督週間に選ばれプレミア上映される。続く第3作目『検死（Post Mortem）』はアルフレド・カストロとアントニア・セヘルス主演で2010年9月ヴェネチア国際映画祭コンペティション部門に選出された。2010年、チリで HBO が初めて制作した『プロフュゴス（Profugos）』のテレビシリーズをスタートさせ、第2弾は2012年の6月よりチリで撮影を開始。本作『NO』は彼の長編映画第4作目である。また、プロデューサー作品として、2013年ベルリン国際映画祭でパウリーナ・ガルシアが主演女優賞に輝き、2014年3月に日本でも公開された『グロリアの青春』がある。

（公式ホームページより）

【講演者　伊藤千尋氏　プロフィール】

いとう　ちひろ　ジャーナリスト。1949年山口県生まれ。71年にキューバでサトウキビ刈り国際ボランティアに参加。73年東京大学法学部を卒業、東大「ジプシー」調査探検隊長として東欧を調査する。74年朝日新聞入社。東京本社外報部を経て。84－87年サンパウロ支局長。88年「AERA」創刊編集部員を務めた後、91－93年バルセロナ支局長。2001－04年ロサンゼルス支局長。現在「BE」集部員。他に「コスタリカ平和の会」代表理事、「ヒューマン・ライツ・ナウ」理事。

著書に『活憲の時代』『変革の時代』『ゲバラの夢　熱き中南米』『君の星は輝いているか』（シネフロント社）『一人の声が世界を変えた！』（新日本出版）
など多数。

NO ノー

・・・・・例会学習会報告（平成 28 年 1 月）・・・・・

『チリの９．１１とチリ国民の闘い』

例会学習会。それは私が神戸映画サークル協議会に所属（今でも所属していますが、さすがにもう毎月は行けません。）しているときの、極上の楽しみでした。講師は大学教授、専門家、友好団体、平和団体、映画の支配人など。神戸で約千人の会員がいますが、毎月上映会をし、その前後にその映画に因んだ学習会を毎月20－30名ぐらいでしていました。この横浜でも上映会当日ではなく、別日を設けての試験的な学習会を1月に開催しました。僭越ながら私が発表者で。

さて、私は青年海外協力隊で10年前に南米のコロンビア共和国へ2年間行かせて頂き、こよなく中南米を愛する者です。今回の上映映画「NO」は1988年頃のチリを描いた映画です。ピノチェト独裁政権3回目の国民の信任投票です。それまでいや今でもチリはピノチェト時代の影が尾を引いています。

1970年、サルバドール＝アジェンデが社会党と共産党の人民連合の大統領として3度目の挑戦で、大統領へ当選しました。世界的にも珍しい議会を通じての社会主義政権を目指したのです。ちなみにアジェンデは医学部出身です。ところが、米国はこの動きをよくみていませんでした。当時。冷戦真只中。ベトナム戦争で初めての敗北を喫した米国は、中南米を自国の裏庭とみなし、容赦ない干渉を実行したのです。

「9，11」ときけば、2001年9月11日の米国テロ事件を思い出す人が多いでしょう。しかし、チリでは1973年9月11日なのです。この日、米国CIAの支援を受けたピノチェト陸軍司令は、クーデターを起こし、大統領官邸が爆撃。アジェンデ大統領は最後まで抵抗しましたが、追い詰められ遂に自殺。アジェンデ家族の顛末は、別のドキュメンタリー映画「アジェンデ」に詳しいので機会があれば、ぜひご覧ください。

そして、ピノチェトは議会を解散し、憲法を停止、政党も非合法化し、労働組合を封じ込めました。メディアも独占。数千人も殺害され、数百万人が亡命を余儀なくされました。それまで国営企業の鉱山などを米国資本へ戻すなど、南米の新自由主義を先行して取り組んだのです。

そんな中でも、チリの国民は独裁を許しませんでした。本日講演の伊藤千尋氏の著書を通して、チリ国民の凄まじい、そして人間としての尊厳をかけた闘争に私は幾多涙したことでしょう。ジャーナリストは獄中にありながらも、タイプライターを要求し、その中で反政府の記事を書く。市民は国民抗議デーでは、逮捕はおろか虐殺も覚悟で立ち上がる。そこまでいかない人も、抵抗の歌「歓喜の歌」や鍋たたきで反政府を訴える。そして、大人だけではなく、子供たちも。1987年のローマ法王の歓迎式典でピノチェトを礼賛する予定だった代表の子供たちまでも「法王様。僕がいま読もうとしているあなたへの歓迎の辞はあらかじめ政府が検閲したものです。これをそのまま述べることは嘘を語ることです。チリ国民を裏切ることです。僕はチリの真実を語りたい。いまのチリには様々な問題があり、若者たちは苦しみ恐れています。国民は虐待されています。」と少年がのべた後、続いて少女は「不正ではなく、正義を。抑圧の代わりに自由を。虚偽ではなく真実を！」と叫んだ。そのいっさいはテレビで生中継されていた。軍政を批判するあからさまな発言が国営テレビの電波にのることなど、クーデター以来の14年間、1度もなかった。それを彼ら若者たちは実現させた。自らの命の危険と迫害とを代償に。（『一人の声が世界を変えた』伊藤千尋氏　新日本出版より）チリはその後、国民の運動によって見事に民主化を勝ち取り、現在に至っています。

一方、日本はきな臭い状況になってきました。安保法案＝戦争法案が昨年9月に強行採決され、いよいよこの3月に施行されようとしています。自衛隊員が戦争の最前線へ行き、殺し殺される立場に置かれようしています。私はコロンビアで内戦のためにたくさんの悲しみと遭遇してきました。率先して日本が自然災害など災害援助隊で駆けつたり、貧困に苦しむ人々に手をさしのべたり、平和主義を活かして紛争当事者を仲介するなど平和文化の構築と多文化共生社会を目指すことこそ必要だと思うのです。みなさんはどう思われますか。（ひ）

・・・・・ アンケート集計結果 ・・・・・

＜ 2015. 11. 3 第42回上映会 ＞

『ぼくたちの家族』

来 場 者 数　　111名
アンケート総数　　38枚（回答率 34.2%）

〈作品についての評価・感想〉

「とても良かった」16 枚　42.1%

●家族の絆と、互の信頼の重要さを再認。
●深く考えさせられたと同時に、元気をもらえ、私も頑張ろうと思った。
●テーマとキャスト共にすばらしかった。
●泣きました。ラストが素敵！
●とても家族愛の感じられる作品で、心が温まりました。

「良かった」17 枚　44.7%

●どう生きてきたのか、結果を家族で打開していくヒューマンストーリに仕上げて困難が逆に希望となるとのテーゼで良かったと思う。
●色々と考える事がありました。
●どこの家でも起きるような「病魔との戦い」をテーマにしているので、内容的にも適切でした。
●お母さんの病気の状態、大変な額の借金・・・。困難な中でお母さんを中心にして男 3 人の連けい。ハラハラしながら見ていましたが、道は開ける！がんばれば何とかなる。自分にも起こりうることなので考えさせられました。
●重い題材でしたが、よくまとまった構成だったと思います。

●Last「お母さんだよ」で一気に込みあげた。自分の故父の時、今、母のことをずっと考えた。鑑賞側はいいですね！

「あまり良くなかった」1枚　2.6%
「良くなかった」0枚　0.0%
「無印」4枚　10.5%

〈これまでの上映作品〉全45回　（特別上映会4回含む）

美しい夏キリシマ/パッチギ！/カーテンコール/二人日和/ゆれる/トリノ、24時からの恋人たち/
長い散歩/天空の草原のナンサ/イノセント・ボイス―12歳の戦場―/モーターサイクル・ダイアリーズ/
恋するトマト/シッコ/歓喜の歌/赤い風船・白い馬/三本木農業高校、馬術部/ラストゲーム～最後の早慶戦/
マリア・カラスの真実/ディア・ドクター/扉をたたく人/縞模様のパジャマの少年/春との旅/
小さな村の小さなダンサー/冬の小鳥/ホームカミング/ミツバチの羽音と地球の回転/デザートフラワー/
ハーモニー心をつなぐ歌/ドーバーばばぁ織姫たちの挑戦/エンディングノート/旅芸人の記録/トガニ/
月世界旅行・メリエスの素晴らしき映画魔術/かぞくのくに/警察日記/名もなく貧しく美しく/よみがえりのレシピ/
きっと、うまくいく/日本の悲劇/ペコロスの母に会いに行く/息子/ハンナ・アーレント/標的の村/救いたい/
野のななのか/ぼくたちの家族

[[　横浜キネマ倶楽部のページ　]]

★★横浜キネマ倶楽部運営委員　2015年　映画ベスト5　アンケート集計（参加者8人）★★

横浜キネマ倶楽部の運営委員が選ぶ２０１５年ベスト作品

日本映画	外国映画
１位　あん	１位　パリよ永遠に
２位　野火	２位　セッション
２位　戦場ぬ止み	２位　顔のないヒトラーたち
２位　KANO	

日本映画監督賞　　塚本晋也、山田洋二、荒井晴彦

日本映画男優賞　　田中泯、小林薫、渋川清彦

日本映画女優賞　　安藤桃子、二階堂ふみ、戸田恵梨香

（次点作品）

・日本映画　海街ダイアリー、母と暮らせば、駆け込み女と駆け出し男、
くちびるに歌を、恋人たち

・外国映画　黄金のアデーレ、アメリカンスパイナー、馬々と人間たち、
ジミー野を駆ける伝説、はじまりのうた、博士と彼女のセオリー、
おみおくりの作法

＜＜＜　前売り券購入方法についてのお知らせ　＞＞＞

［ゆうちょ振込による前売り購入］

各上映会３日前まで、ゆうちょ口座にて前売りを受付いたします。
前売り料金(1,000 円)を以下の口座へご入金ください。
チケットは、当日受付にてお渡しいたします。

ゆうちょ銀行総合口座　記号 10200 番号 22932931
加入者名:ヨコハマキネマクラブ

［チケットぴあによる前売り購入］

Ｐコードについてはチラシ、ホームページにてお知らせします。

「セブン-イレブン」「サークルＫ・サンクス」でチケットの発券ができます。

［プレイガイドによる前売り購入］

〈前売り券取り扱い所〉

有隣堂伊勢佐木町本店	TEL 045-261-1231
高橋書店（元町）	TEL 045-664-7371
シネマジャック＆ベティ	TEL 045-243-9800
横浜シネマリン	TEL 045-341-3180
いづみ書房	TEL 045-241-1104

横浜に映画ファンの思いが反映される映画感を作ろう！

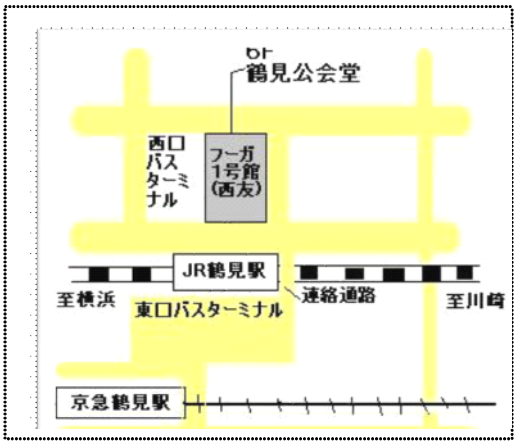
横浜キネマ倶楽部は、横浜で永年親しまれてきた映画館の相次ぐ閉館を惜しむ映画ファンが集まり、２００５年５月発足し、「横浜に映画ファンの思いが反映される映画館をつくる」ことを目標に掲げて活動を続けています。会の存在をより多くの皆様に知っていただき、映画館をつくる目標に一歩良質な映画を上映することで、映画ファンの交流の場を提供したい、という思いで年４回の上映会を行っています。

次回上映会のお知らせ

2016年6月18日（土）

上映時間　①11：00～
　　②13：00～
　　③14：40～
ロビー交流会：12：30～12：50

〔入場料〕
前売り1,000円　　当日1,300円
障がい者　1,000円　(介護者１名無料)
〔会 場〕
鶴見公会堂　045-583-1353
ＪＲ鶴見駅西口下車徒歩1分
京急線京急鶴見駅下車徒歩５分



鶴見公会堂　地図

上映作品

（ドキュメンタリー映画）

熊と蜜蜂とアキオさん
『春よこい』

©2015 春よこい製作委員会

監督/撮影：安孫子亘
主人公：猪俣昭夫　福島県金山町の皆さん　　ナレーション：山本紀彦
音楽：東出五国　　編曲：野崎洋一　秦野 萌
録音/MA スタジオ：アフタービート　編集スタジオ：会津ジイゴ坂学舎
プロデューサー：ナオミ　　企画/製作/配給：ミルインターナショナル

撮影期間は２年にわたり、金山町の自然と向き合う「マタギ猪俣昭夫」を追ったドキュメンタリー映画。

マタギを生業（なりわい）として生きる猪俣さんの普段の生活を撮影。冬は雪山で狩りをし、春は在来種のニホンミツバチの蜂蜜を採る―　山の神を崇拝し、マタギ独自の文化、山の掟に従って狩りをするマタギの姿・精神が描かれた作品

横浜キネマ倶楽部会報

発行：横浜キネマ倶楽部

〒231－0012　横浜市中区相生町1の15
第2東商ビル4階－C　労働市民法律事務所
気付
TEL:080－8118－8502　(10時～18時)
Eメール：yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp
HPアドレス：http://ykc.jimdo.com